

2020年 第1回 研究会, 研究委員会の近況と活動日程

黒田恭司*₁ 岡田公治*₂

*₁ 日本アイ・ビー・エム *₂ 東京都市大学

1th Activity Report, February 2020: Committee of Study Groups

Kyoji Kuroda*₁ Koji Okada*₂

*₁ IBM Japan, Ltd. *₂ Tokyo City University

研究委員会では個別テーマ毎の研究会活動とトワイライトサロンや研究委員会フォーラム等のイベントを運営しています。2020年1月24日現在の各研究会活動の活動状況や予定などを掲載しますので、ご興味のある研究会への参画を是非、お願いいたします。

1. 研究会の活動状況

(1) アジャイルPM研究会

(主査：酒森 潔 産業技術大学院大学)

近年 IT 系のプロジェクトを中心に、アジャイル開発によるシステム開発プロジェクトが普及してきました。

本研究会は、このような社会状況の中で、アジャイルプロジェクトの効果的なマネジメント方法について議論し研究することで、アジャイルプロジェクトの活用を推進していくことを目的としています。

いよいよ本年より3活動を開始しますので、興味をお持ちの方はぜひ一緒に活動しませんか。希望者は下記詳細問い合わせ先へ申し込んでください。

<今後の活動予定>

2月：会員募集開始

3月中旬：アジャイルPM研究会キックオフ

4月以降：月次定例会開催予定

9月：合宿予定

【詳細問合せ先】 sakamori@aiit.ac.jp

(2) メンタルヘルス研究会

(主査：前田 英行 日立社会情報サービス)

月1回の定例会と年1回のワークショップを中心に活動中です。



定例会の様子 (1月15日)

<直近の活動実績>

12月20日：第116回 定例会開催 (10名)

「PREP法とKPT法でのプレゼンテーション」

(柴垣 太郎)

ワークショップ in 高松の振り返りにおいて、今後のプレゼンや文章作成に関して活用可能なPREP法、KPT法の構成技術を紹介頂きました。PREP法はPoint-Reason-Example-Pointと最初に結論を伝え、その理由を説明し、事例を用いて理由を補足し、最後に結論を再提示する方法で説得力のあるプレゼンや文章の作成が可能であると認識できました。また、KPT法により2020年の研究会活動に向けKeepすること、Problemなこと、Tryすることを議論しました。

「ワークショップ in 高松 まとめ資料について」

(新聞 陽一郎)

10月に実施したワークショップのまとめ資料の進捗を確認いたしました。アンケート結果では各セッションともに肯定的な回答が90%以上であったことからワークショップは

成功したとの理解と、来年も続けていきたいと意欲を持つことができました。

1月15日：第117回 定例会開催（8名）

「IT技術者のためのメンタルケア」（前田 英行）
新メンバーの加入により、メンタルヘルス研究会の紹介と脳の構造や人が幸せと感じる感情の由来などに関して説明頂きました。

「スキーマ療法について」（西垣 真澄）

ジェフェリー・ヤング氏が開発したパーソナリティ障害等の治療法であるスキーマ療法に関して、議論を行いました。「スキーマ」とは、「人が現実や体験を捉える際のパターンであり、人生の初期段階に形成され、その後それが精緻化され続け、たとえそのスキーマが適切なものではなくなったとしてもその後の人生経験において活用され続ける」もののことをいい、認知行動療法などに効果を示さない、もしくは再発するケースに用いられています。スキーマ療法の概要を理解した後、メンバー各人がどのようなスキーマを所有しているかの簡易テストを実施し、各スキーマの理解を深めました。

<今後の活動予定>

- 2月19日：第118回 定例会開催予定
- 3月18日：第119回 定例会開催予定
- 4月15日：第120回 定例会開催予定

【詳細問合せ先】 pmmh_all@googlegroups.com

(3) 人工知能（AI）と統計モデル研究会

（主査：梶山 昌之 ワイハット）

当研究会は人工知能（AI）と統計モデルをプロジェクトで活用するための研究を行います。現時点の学習・研究テーマとしては以下の5つになります。

- ① ディープラーニング研究
- ② AIプロジェクト研究
- ③ Python の学習と活用
- ④ 統計モデルによる分析と予測
- ⑤ R言語の学習と活用

ディープラーニング研究では、「実践 Deep Learning」の書籍を教科書として内容を学習中です。この書籍では、TensorFlow によるニューラルネットワークの実装から、深層強化学習までの内容を扱っていますので、より実践的な活用法が習得できます。

AIプロジェクト研究では、プロジェクトとしてのAIの導入と活用について学習および研究を行

います。Webで公開されているAIの学習教材である「Machine Learning Yarning」による学習を始めました。また、AI白書を参照の内容を参照し、実務への活用方法を学習します。ディープラーニングの検定試験としてG検定がありますが、合格のための知識を学習することができます。

本研究会に参加するメンバーの興味は、人工知能の理論から、プロジェクト開発への応用まで様々です。そこで、複数の分科会による少人数での活動を行っています。

<直近の活動実績>

- 11月29日：ディープラーニング研究（7名）
- 12月2日：AIプロジェクト研究（7名）

<今後の活動予定>

- 1月24日：ディープラーニング研究
- 1月30日：AIプロジェクト研究
- 2月6日：定例会開催予定
- 2月19日：定例会開催予定
- 3月4日：定例会開催予定
- 3月19日：定例会開催予定
- 4月1日：定例会開催予定
- 4月15日：定例会開催予定

定例会は2回/月（原則として第1水曜日と第3水曜日（18:30～20:30））に開催します。ただし、毎回、発表者、参加予定者、会場の都合を反映して、開催日程を調整しますので、予定が変更になる場合があります。当研究会では参加者のスキルに合わせた運営を行っていますので、AIまたは統計が初めての方も気軽にご参加ください。

【詳細問合せ先】 kajiyama@yhat.co.jp

(4) フロネシス PM（知恵ある実践）研究会

（主査：中村 太一 国立情報学研究所）

フロネシス PM（知恵ある実践）研究会は、暫定的に隔月の例会開催となっています。

今年後半は、リーダーシップをテーマに“世界に通用する日本型プロジェクト・リーダーシップはあるのか？”をテーマにリーダーシップと文化について、隔月の第2木曜日に開催しています。

12月12日の例会では、欧米では、ビジネス戦略をプロジェクトに落とし込む機能を担うビジネスアナリストが職種として確立されており、昨今のDXプロジェクトを牽引する重要な役割を担っています。翻って受託型プロジェクトが多い日本のITプロジェクトでは、どこが、だれが、ビジネスとプロ

プロジェクトの橋渡しをするべきなのか、のテーマで活発な意見交換が成されました。本来ならば発注者企業が積極的にその役割を担うべきではあるが、同時に受注者企業も発注者に主体的に働きかけ、双方が協働で行うのが現実的ではないか、との意見が多く出されました。

<今後の活動予定>

2月13日：例会開催予定

「DXを支えるリーダー：日本の課題と対策」
予定

【詳細問合せ先】pmsocietystudy@googlegroups.com

(5) リスク・マネジメント研究会

(主査：木野 泰伸 筑波大学)

本研究会では、プロジェクト・リスクに関する研究を行っています。1月8日(水)に研究会を実施し、昨年度に引き続き、リスク・マネジメント研修の改善と実施に向けた検討を行いました。また、機械学習を用いたリスクの洗い出し方法についての検討を実施しています。

<今後の活動予定>

2月20日：定例会開催予定

3月19日：定例会開催予定

【詳細問合せ先】pmsocietystudy@googlegroups.com

(6) ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

(主査：河合 輝欣 ユー・エス・イー)

ソーシャル PM の体系化を目指して、社会の基盤情報システムとしての官公庁プロジェクト等に焦点を当てて研究会を行っています。

現在、当研究会では、社会インフラプロジェクトの事例研究として、総務省の「ICT 街づくり」や東日本大震災の復旧・復興の街づくりを研究テーマとし、ICT プロジェクトマネジメントの視点から、知見・知識の集積を行い、知識や理論の体系化を試みています。

体系化の一環として、街づくりプロジェクトの導入・展開における基本的な考え方や留意事項を取りまとめたガイドラインを作成中です。

【詳細問合せ先】yamamotot@nttdatacs.co.jp(山本)

2. その他

活動中の研究会への参加希望や、新規研究会の提案に関する問合せは、下記までご連絡をお願いします。

【問合せ先】pmsocietystudy@googlegroups.com

研究委員会 委員長 黒田 恭司
研究委員会 副委員長 岡田 公治

参考文献

Andrew Ng, Machine Learning Yearning,
<https://www.deeplearning.ai/machine-learning-yearning/>, (accessed 2019-11-22).